

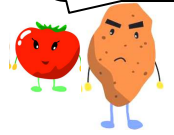
戦争を語り継ぐ

戦後65年、戦争を知らない世代がふえています。また、戦争の悲惨さを次の世代に伝える方々が少なくなっています。私たちは機会をみつけ戦争を語り継ぐ作業を続けたいと考えています。

今回、従軍看護婦として召集され、外地の戦場で生き地獄を体験した方とめぐり合いました。その方のお話を伺います。

戦争を知らない若い方々、ぜひお越しください。

子どもに
「戦争を
つない国」
を伝えたい。



わたしは従軍看護婦だった

「リンゴの皮をむくときのあのシュルシュルという音が、66年前の弾丸が耳もとをかすめる音に重なるのです」

語り手：河合 信子さん



婦人従軍歌

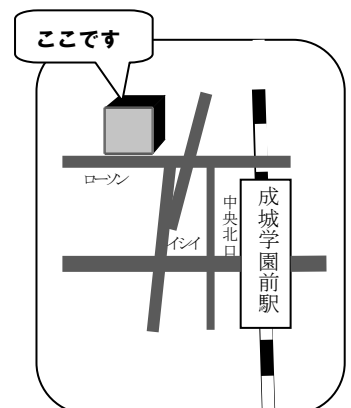
- 一、 火筒のひびき 遠ざかる
跡には虫も こえたてず
吹き立つ風は なまぐさく
くれない染めし 草の色
- 二、 わきてすごきは 敵味方
帽子とび去り 袖ちぎれ
たおれし人の 顔色は
野辺の草葉に さもにたり
- 三、 やがて十字の 旗を立て
天幕をさして 荷い行く
天幕に待つは 日の本の
仁と愛とに 富む婦人
- 四、 真白に細き 手をのべて
流るる血しお 洗い去り
まくや繻帯 白妙の
衣の袖は あけにそみ
- 五、 味方の兵の 上のみか
言も通わぬ あだ迄も
いとねんごろに 看護する
心のいろは 赤十字
- 六、 あな勇ましや 文明の
母と云う名を おい持ちて
いとねんごろに 看護する
心のいろは 赤十字

と き 10年4月18日(日)
午後1時半～4時

ところ 砧総合支所4階 C集会室

参加費・資料代 500円

当日は「9の日ちらし」や恒例の九条クッキーを販売します。



主催／成城地域「九条の会」

婦人従軍歌

加藤 義清 作詞
奥 好義 作曲

♩ = 112

ほづつの ひびきーとおざかる
あとには むしもーこえたてず
ふきたつ かぜはーなまぐさく
くれない そめしーくさのいろ

婦人従軍歌

一 加藤義清 作

- 一、火筒のひびき 遠ざかる
跡には虫も こえたてず
吹き立つ風は なまぐさく
くれない染めし 草の色
- 二、わきてすこきは 敵味方
帽子とび去り 袖ちぎれ
たおれし人の 顔色は
野辺の草葉に さもにたり
- 三、やがて十字の 旗を立て
天幕をさして 荷い行く
天幕に待つは 日の本の
仁と愛とに 富む婦人
- 四、真白に細き 手をのべて
流るる血しお 洗い去り
まくや繻帯 白妙の
衣の袖は あけにそみ
- 五、味方の兵の 上のみか
言も通わぬ あだ迄も
いとねんごろに 看護する
心のいろは 赤十字
- 六、あな勇ましや 文明の
母と云う名を おい持ちて
いとねんごろに 看護する
心のいろは 赤十字

元クラリネット奏者加藤義清が(旧姓菊間)、日清戦争時、任地に赴く従軍看護婦のりりしい姿を、新橋駅頭で見て感動し、格調高いバラードに書きあげたといわれている。是に当時宮内省の楽師兼華族女学校の教官であった奥好義が附曲した。戦争に協力する婦女子のテーマ音楽、戦争最中にもあるヒューマンイズムのテーマ音楽として、太平洋戦争終結時迄愛唱されて、生命の長い曲となった。従軍看護婦を主題にした唯一の軍歌で、世界的にも珍しいと云う事である。

